

# 杏林

KYORIN DAIGAKU SHIMBUN

## 大学新聞

● 学長・学部長座談会 学生と共に歩み創る杏林教育	1	● 学部・大学院トピックス	6
● 学生生活をデザイン 学生ステーション、就職関連サークル	4	● 杏林大学地域交流活動	7
● 卒業生リレー 小林史和さん	5	● キャンパス情報 警備室	7
● 在学生リレー 松井幸恵さん	5	● クラブ紹介 端艇部、写真部	8
● 学園創立50周年へ 杏林クロニクル③ 社会科学部 (現・総合政策学部)	5	● 連載・金田一教授の研究室から	8
		● 連載・健康ひとくちメモ アルコール	8
		● 連載・数字で見る杏林大学	8

座談会●学長・4学部長が語る

# 学生と共に歩み創る杏林教育

学長 跡見裕  
医学部長 後藤元 保健学部長 大瀧純一 総合政策学部長 松田和晃 外国語学部長 赤井孝雄



## 50周年を迎えるにあたり

学長 跡見裕

杏林学園は、1966年に初代理事長松田進勇先生によって、衛生検査技師(当時)を養成する杏林学園短期大学として創立されました。その後医学部、保健学部、社会科学部(現総合政策学部)、外国語学部、医学研究科、保健学研究科、国際協力研究科の開設とめざましい発展を遂げ、2016年に50周年を迎えようとしています。

昨年総合政策学部、外国語学部の1年生の全クラスを回って、学生たちと話をする機会を持ちました。みな新入生らしく目を輝かせて快活にいろいろ話します。服装そのほか外見はかつてとはだいぶ異なりますが、学生らしさはいつの時代も同じであると感じました。各地に講演等に出かけると、その医師会長が杏林OBであったり、他大学で杏林OBが教授をしていたりするのを見ると、まさに本学の歴史を感じます。

本日は4学部長にお集まりいただき、杏林大学の学部教育の歴史、特長、問題点とその対策、学生に期待することなどを存分に語っていただきたいと思います。また、日本は少子化が急速に進み大学教育が大幅に変革せざるをえない時代となりました。この少子化問題も含めて現在各学部がかかえている課題をまずお話し下さい。

## 学部の歩み

### 社会の変化に対応

**大瀧**：杏林短期大学を前身とする保健学部は、大学開設時には臨床検査技術学科、保健学科の2学科でスタート、その後看護学科を設置し、大学発展期においては、この3学科を学部の柱として教育を行ってきました。

近年、殊にチーム医療の重要性が高まり、それとともにコメディカルの果たす役割が大きくなってきました。保健学部ではそのニーズに応えるべく、高度な医療機器の取り扱いに長けた臨床工学技士を養成する臨床工学科、プレホスピタルケアのスペシャリスト・救急救命士を養成する救急救命学科、QOL向上のためのリハビリテーションを支えるセラピスト

養成のための理学療法学科、作業療法学科を相次いで設置し、今では7学科を擁しています。

その結果、現在では学部生は1,600名にのぼり、ハード面でのキャパシティの問題を解決しなければならないことと、教育上の観点からも、もう少し小さな単位で授業を行えば、よりきめの細かい学生への指導ができるのではないかと考えています。

**松田**：現在、総合政策学部の1学年の定員は270名です。一般教養科目の中には履修者数の比較的多い科目もありますが、原則として少人数で細やかな教育を行うことを重視しており、その一つがプレゼミナール(以下プレゼミ)です。

昨今IT化がさらに促進されていった結果、学生は情報過多に陥っています。山



建学の精神「真・善・美」の3文字が、学園創立15周年に建てられた三鷹キャンパスの医学資料情報センター棟(通称本部棟)の壁面に刻まれている。

のような真偽不明な情報の中で、何を選択していいのかわからないのか、迷っている状況です。情報とどう向き合うのか1年生の時期からきちんと教えていくことも課題です。

**学長**：今行われているプレゼミはどういう目的で具体的に何をしていますのでしょうか。

**松田**：1クラス10人程度で構成するプレゼミは、新入生を一刻も早く大学生活に馴染ませることが目的であり、1年生は全員が入ります。年々就職活動が厳しくなってきたので、SPI対策(\*注)もプレゼミで行っています。担当教員はそれぞれのプレゼミの情報交換を緊密に行い、ゼミの質を高めていくべく配慮しようとしています。

(\*注) 多くの企業が就職試験の際に導入している筆記試験で基礎能力や性格適性を調べるもの。言語能力(表現力や文章力)、非言語能力(数量的処理能力)、性格適性(適応能力)で構成される。

**学長**：Early Exposure(早期体験)、すなわち早めに専門教育を行うことと、社会人に向けての基礎を築くこと、一般教養をしっかりと行うことの兼ね合いは大変難しいのですが、そこをプレゼミで第一歩から教えていくわけですね。就職を控えての対応など、さまざまな教育を行っているということですね。外国語学部はいかがですか。

**赤井**：現実として学生にとっては就職問題が非常に大きく、そのためキャリア指導の授業を2年生からスタートして4年生までやっています。しかし学部教育はそれだけが目的ではありません。キャリア指導に力を入りすぎると大事な学部教育がおろそかになるので、その兼ね合いが課題の1つとなっています。

**後藤**：医学部は定員数がここ3年ほどの間に増えており、それに対応した教育を

しています。実習室・教室の整備、学生ホールの改修、図書館の改修なども行い、学生にとっての大学の環境・施設などのアメニティ(心地よさ、快適さ)の改善という課題に取り組んでいます。

また、この40年間医学は本当に日進月歩で進歩しており、学生が6年間で覚えるべきことが非常に増えています。国家試験という関門もあり、大きなストレスがかかる学生をどう教育していくかも重要な課題です。

## 杏林の特色を活かし 学部間連携の強化を

**学長**：杏林大学の特長の1つは4学部間の連携です。医学部と保健学部、総合政策学部と外国語学部は学門分野が近いこともあり連携しやすいと思います。また4学部が実際の教育においてうまく交流していくことが必要だと思います。

**松田**：総合政策学部は、複数の教員が1つのテーマの下に学生を指導する学際演習にも力を入れています。これは2年次から履修可能で、3、4名の教員が1組で8~10のグループがあります。1つの問題について国際政治・経済、法律・行政、環境・福祉、経営、会計関連のコースの教員が、それぞれ専門の視点から論じ、それを解決するためにはどうリネージュしていくべきか、その解決策を学生の前で見せています。

また、複雑な社会構造を概観できる「社会のしくみ」の授業では、他の3学部教員の協力をいただき、社会科学系以外の要素をも積極的に取り入れて、より実社会の構成にもとづいた講義展開が行われているのは、総合大学としての強みでしょう。

**赤井**：観光交流文化学科の「観光保健論」では保健学部の先生方による授業が設け



看護学科 母性看護学演習の様子。新生児のモデルを使って、全身観察の方法を学んでいるところ。



左から赤井孝雄外国語学部長、後藤元医学部長、跡見裕学長、大瀧純一保健学部長、松田和晃総合政策学部長。2012年1月三鷹キャンパス本部棟11階貴賓室にて。

られています。昨年は医学部の神谷先生に授業をご担当いただき、学生はふだん聞く機会のない感染症の話に熱心に耳を傾けていました。文系の学生が、理系あるいは自然科学系の授業を聞くことは重要だとあらためて感じました。昨年はまずそれをやってみようということから始め、次年度からはシラバスにあらかじめ組み込んで実施できるといいと思います。

**学長：**理系学部はカリキュラムがびっしりです。学生がいろいろ選択する余地がないという実情もありますが、その中で学部間の交流・連携はどうされていますか。

**大瀧：**保健学部では、学部間連携科目として、「医学概論」「保健学概論」「看護学概論」の中で数コマを他の学部の先生方に担当してもらっています。また以前から、一般教育科目の「日本国憲法」や「日本語表現法」等の授業を文系学部の先生に担当していただいています。文系の先生方は幅広い知識をお持ちなので、話がおもしろく学生からの評判も大変良いようです。これからも、総合大学の特色を活かして学部間連携を促進したいと考えています。



外国語学部 金田一秀穂教授が担当した医学部の「医療科学」の授業。医師になれば相手や場面に応じたコミュニケーション能力が求められる。専門以外の講義内容に新鮮な印象を受けた学生も多かった。

**後藤：**学部間連携科目に対する学生の評判はとても良いものでした。医学部はカリキュラムががちり組まれていて、なかなか専門分野以外のことを学ぶ機会を増やすのは難しい部分もありますが、「医療科学」という科目で人間性、倫理、哲学を含む幅広い情操面での豊かさを培うための講義を行っており、医師に求められる資質を育む時間として位置づけています。その中でさらに他学部と連携しながら教育を行っていくことができると思います。

### 社会人としての基礎教育の大切さ

**学長：**専門教育と一般教育の問題については、Early Exposure というかたちで、どんどん専門教育が早まる流れにあります。少し反省の時期が来ているのかもしれない。社会人として、人間としてどう考え、どう生きるのかという、根本的なことをきちんと学ぶことが少しおろそかにされているように思います。

杏林大学では、人間として基礎的な、社会人としてしっかり身につけるべきことを教えることが重要であるという認識のもとで、そのような取り組みがなされている現状を心強く思います。

## 学部教育の将来への取り組み

### 学生にとって何が重要かを考える

**学長：**本学では、中期計画検討委員会でいろいろな問題の検討を行い、それを解決するための取り組みを行っています。

各学部は将来に向けて、どのような対策を今考え、また実際に行っているのでしょうか。

**松田：**総合政策学部は4年に1回ずつカリキュラムの改正を重ね、常に変化している社会のニーズを吸い上げてきました。現在は、医学部で率先して行っている

PBL (Problem Based Learning)を、1年生の段階でプレゼミを基盤としてスタートさせようと検討しています。それから、出口(就職)が大きな問題になっているので、簿記試験や公務員試験の合格率を上げていく対策をしています。またプレゼミに関しては、担当者会議を開いて学生情報の共有を図り、共有した情報をどう活かすかという次の段階に進むためのシステムを作り上げたところです。それには若手の教員が中心となって、侃々諤々の討論を行っており、いい形で結実すると思っています。

**赤井：**外国語学部では、外国語の語学力を身につけるということが一番の目的になります。そのために何が最も有効な勉強の方法かを考えているところです。双方向性の授業や能動的なActive Learningは、語学の授業の中では以前から取り組んでいます。それを活かして語学力を伸ばすには今以上にクラスサイズを小さくすることが重要だと思います。

それからできうればイギリスなどの大学で行われているチュートリアルあるいはスーパーバイジングといった、一人の教員に学生数名を割り振り、卒業まで面倒を見る体制ができれば理想的だと思います。語学力を身につけないことには外国語学部卒ということにはなりません。海外研修に対する奨学金や授業料減免などの制度も充実しました。学生がこれまで以上に海外に出ていく機会を増やし、その成果が語学力のアップにつながればいいと思います。

**後藤：**医学部は、医学の内容が濃くなっていく中で、学生が理解できるよう、カリキュラムをそれに対応したものにすることが課題です。こうした課題に対して教員が集まり、問題点がどこにあるか、それにどう対応していくかを議論しています。卒業試験を例えますと、本学では3日間で500題をこなすという仕組みですが、試験問題の質は重要であり、1題1題を夏休みなどに教員が合宿をして全てチェックして吟味しています。

授業の改善を図るために学生による「教員の授業評価」も実施しています。

それらを有機的に組み合わせながら、良い教育を行うことに取り組んでいます。

**大瀧：**保健学部の学生は、卒業と同時に

それぞれの資格を手に夢への第一歩を踏み出すわけで、4年間で多くのことを学び経験します。ただ、単に専門的な知識を詰め込むだけでは多角的な視野を培うことができないため、様々な体験の機会を設けています。

例えば、毎年9月に実施するカナダのランガラカレッジへの2週間の語学研修です。語学研修カリキュラムに加え、保健・医療施設の訪問や現地の看護学生との共同実習、そしてホストファミリーとの生活でカナダの文化にも触れる盛りだくさんの研修です。参加者は、「ホームステイ先の家族の温かさに接し、とても貴重な体験ができた」と話しています。他にも長期休暇を利用してサマーキャンプなどボランティア活動に参加する学生も多いようです。学生には、こうした機会を積極的に利用してほしいと思います。

## 若者は時代を映す鏡

### 自分で考える力を身につける

**学長：**松田先生から、学生は少し情報に振り回されているようだというお話がありました。学生たちが何か変わってきているところがあるかどうか。

**松田：**先ほど申し上げたことは杏林大学の学生だけではなく、社会全般がそうなっていると思います。

年に1回企業の人事担当者との会合があります。杏林の卒業生の評判は、「大変純朴である」ということです。これは何かを教えるときに抵抗なく受け入れてくれることを評価しているようです。ただしそれは、ハングリー精神に欠けることにもつながりかねないことです。それゆえどう学生の精神を刺激していけばよいか考えています。

**大瀧：**今、大学に入学してくる学生はゆとり教育の世代です。ゆとり教育が見直されて、今年から小学校の教育内容が変わりました。その小学生が大学に入学するのに10年間かかる。大学は今後10年間はゆとり教育を受けた学生に合った指導をしていかななくてはならない。かつては高校で学んだことを、いまは大学で学ぶという状況です。

また社会、一般企業は、当然大学を出ているのだから、これくらいはわかるだ



医学部

## 良医の育成は医学部の使命

学部長 後藤 元

杏林学園が開設された1966年は、ちょうど私が大学に入学した年と重なり縁を感じます。医学部開設当時、学生は八王子キャンパスで寮生活を送っていたと聞いています。医学部の卒業生は既に3,500名ほどになっています。現在全国に医学部は80校あります。その中で杏林の名は、中国の故事にちなんでいますが、その名前のように患者さんに感謝してもらえる医療が提供できる良い医師を養成するのが学部の支柱です。加えて、分院等がないため、三鷹キャンパスで医師と学生が一緒になって6年間同じ釜の飯を食べて

勉強できる環境にあります。医学部には、東京都と茨城県の地域枠があります。地域枠とはそれぞれの自治体の地域医療に貢献する医師を育成するもので、現在、杏林大学には毎年東京都枠10名、茨城県枠2名があります。地域枠では特に小児医療、周産期医療、救急医療、へき地医療に大きな期待が寄せられていますが、こうした医療は、まさに杏林大学が力を注いできた分野です。本学が積み上げてきた実績を、ぜひ地域枠の教育に反映させて、これからの医療に貢献したいと思っています。



保健学部

## 人・健康をテーマに社会のニーズに応える

学部長 大瀧 純一

杏林短期大学の校舎は、確か現在の三鷹キャンパスの食堂(アプリコット)の辺りにあったと記憶しています。1979年にその短大が八王子キャンパスに移り4年制の保健学部になりました。当時、臨床検査技師の養成は専門学校主体に行われていましたが、初代の理事長がこれを短大、さらに4年制の大学学部へ移行させたことは画期的な出来事でした。その後順次新しい学科が開設され、今では全部で7学科2専攻体制となりました。背景には社会状況や医療環境の変化が挙げられます。例として高齢化社会に

- 1966年4月 杏林学園短期大学開設
- 1973年4月 杏林短期大学衛生技術学科に名称変更
- 1979年4月 保健学部(臨床検査技術学科、保健学科)開設
- 1994年4月 看護学科開設
- 2006年4月 臨床工学科開設
- 2007年4月 保健学科を健康福祉学科に名称変更、救急救命学科開設
- 2009年4月 理学療法学科開設
- 2011年4月 作業療法学科開設
- 2012年4月 看護学科が看護学専攻と看護学教育専攻に

において人が健康に暮らしていくサポートができる人材、高度化する医療の分野においてチーム医療を担う、高度な専門知識をもつ医療従事者の養成が求められています。保健学部はこうした社会のニーズに応える教育をしています。学生は4年制大学ならではの高度な教育を受け、教養を身につけて社会に巣立っていきます。そのために必要な学習支援、相談体制を整えています。

ろうという前提で話をしますが、実際はわからない。ギャップが大きいので会社を辞めてしまう新入社員もいるそうです。4年間は専門知識や一般常識を一生懸命身につけてはならない。

**赤井:** 学生気質が純朴である、素直であるという点は、昔も今も変わっていないようです。それは、いい面もあれば悪い面もあるわけです。

ゆとり世代の学生に対する大学教育についてもそうですが、その次の世代がしつけを受けて入ってくるかは蓋を開けてみないとわからない。いずれにせよ、社会の変化に伴い、かつて大学では必要でなかったことも教育していかなくてはならない。例えば、飲み終えた空き缶を机の上に置きっぱなしにして去っていき、それで平気な学生にいちいち注意することも大学で必要になってきているのかもしれない。

**学長:** 私が大学に入学したのは昭和38年です。そのころはほとんどない世代と言われ、若者は上の世代から見れば、変わっていると思われました。それがいいか悪いは別として、若者はそういうふうに見られる世代です。彼らが将来どう成長していくのか教育者側もゆとりを持って考える必要があるし、学生も考える力を持つてほしい。自分で考える力を身につけることが教養、一般的な力だと思います。学生諸君と私たち教職員は共に学んでいくことが必要だと思います。

**後藤:** 医学部は全国的にみても、辛いけれどもやりがいがある外科、小児科、救急科などを志望する学生が減り、特定の診療科を志望する学生が増えています。基礎医学の分野に進む学生も減っています。それは学生気質の変化、ゆとり教育の中で学んできたことによる影響もあると思います。また、社会が医療について厳

しく見ていて、医療事故の責任問題が報じられたりすることを学生が敏感に受け取っていることも関係していると思います。しかし、医学部の学生は医学部へ入ってきた理由として患者の方々の助けたいという純粋な気持を皆持っています。その希望をぜひかなえるようにしたいと思います。

## 学生に期待すること

### “目指せ、夢の実現”

**学長:** 最後に、学生諸君に期待することをお話してください。

**後藤:** 医学部の場合、医師になるためには国家試験をパスするという明確な目標があります。ハードルを一つ一つ乗り越えて行かなくてはならないので非常に厳しい6年間です。そのために学生をいろいろサポートする環境づくりをしています。担任制度もあり、教師と学生の距離が近いという特長もあります。

これらを最大限に利用して一人残らず国家試験に合格してほしい。でも、それは終点ではなくて、医者としての第一歩です。その第一歩を目指して着実に歩んでほしいと思います。

**大瀧:** みな夢を持って大学に入学してきます。ところが学年が進むにつれて揺らぐ学生が出てくる。そういうときには、どうして大学に入学したのか思い出していただきたい。私たち教員は教えることだけでなく、学生よりも長い人生経験を積んでいます。一人で悩まないで私たちに相談してほしい。1年生として入ってきたときの夢を追い続け、4年間勉強して、社会に出て、大いに活躍してほしいと思います。

**松田:** 学生に望むことはよき社会人になれということです。よき社会人とは、自分があってその周りに社会があるのでは

## 留学、課外活動

### 誰にでもチャンスはある

**学長:** 今の大学を取り巻く状況にグローバル化の問題があります。日本の学生、研究者の海外留学が減ってきている現状があります。英語による医学論文は他の国では増えていますが、日本だけが減少傾向にあります。それは国際的な視野が日本人に欠如しつつあるためでしょうか、日本の中で自己完結して満足してしまう傾向があるようです。私たちの若いころは海外で活躍できるので商社に勤めよ



カナダ・バンクーバー語学研修。現地の医療施設で担当者から説明を受ける学生たち

### 杏林大学優秀学生奨励制度

#### 成績優秀学生奨励金

本制度は平成18年度より始まり、4学部13学科の2年生以上の最も優秀な成績を収めた学生に毎年奨励金が授与される。前年度の成績が選考の対象になる。

#### 特別奨励金(平成24年度新設)

以下の①から④に該当し、自薦・他薦により所定の申請書を提出した学生が選考の対象になる。  
①難関資格・検定(右表)を取得あるいは基準となる成績を収めた者。  
②課外活動において、顕著な活動実績が認められた者。  
③ボランティアにおいて、顕著な活動実績が認められた者。  
④その他、大学が認めた難関資格・検定、社会貢献活動、学内活動等において、顕著な活動実績が認められた者。



東京新大学野球連盟1部リーグで健闘する硬式野球部。今年も1部での活躍が期待される

うとする人が多かった。それが少なくなっているのは時代の流れかもしれません。

しかし、杏林の外国語学部では海外に留学する学生が増加しています。保健学部にはカナダへの留学制度があります。ぜひ留学制度を活用して学生諸君は進取の気性をもって海外に目を向けてもらいたい。

平成24年度からは難関資格や検定、課外活動やボランティアにおいて顕著な活動実績を残した学生に特別奨励金が授与されます。夢や目標に向かって邁進する学生諸君を大学は応援し、サポートします。

学部	学科	難関資格・検定等	実績・成績
医学部	医学科	USMLE(米国医師資格試験)	合格
保健学部	臨床検査技術学科	《保健学部各学科共通》 技術士第1次試験 上級バイオ技術者認定試験 第1種ME技術実力試験	合格
	健康福祉学科		合格
	看護学科		合格
	臨床工学科		合格
	救急救命学科		合格
総合政策学部	総合政策学科	《総合政策学部各学科共通》 漢字検定1級 行政書士試験 公認会計士試験短答式 司法書士試験 税理士試験科目 日商簿記検定1級	合格
	企業経営学科		合格
外国語学部	英語学科	TOEIC 英検1級 日本語教育能力検定試験	800点以上 合格 合格
	中国語学科	中国語検定準1級 (既習者は1級) 日本語教育能力検定試験	合格 合格
	観光交流文化学科	通訳案内士試験(各国語) 日本語教育能力検定試験	合格 合格

なく、社会の中に自分がいること、そして自分の立ち位置をしっかりと認識できる人のことです。そのために当学部ではさまざまな個別の教育をしています。社会全体の構造が把握できることを中心とした教育をしています。その上で個々の学生が、周囲の社会に違和感なく働きかけのできる人間になってほしいと思います。  
**赤井:** 学部だけでなく、大学全体には様々な支援体制、制度があります。学生は自

分の夢の実現のためにそれらを有効活用してもらいたいと思います。

**学長:** 皆さんありがとうございました。本日は、学部沿革、学生教育の各学部での特長、学部が有する問題点とその対応、学生諸君の今の姿、をお話いただきました。教職員が50周年に向けて、杏林大学の発展のために何をなすべきかがよくわかってきたことと思います。ご指導のほど、よろしくお祈りします。



八王子キャンパス授業風景(左上)。

学生広場コートヤード空(左下)にはデンマーク製の木造の東屋が6棟並ぶ。授業の合間などに学生たちが集う。八王子キャンパス全景(右)。社会科学部開設当時、構内にバスは乗り入れていなかった。「坂の下の『宮下』でバスを待っている時に偶然足元に縄文土器が転がっていたこともありました」と振り返る松田総合政策学部長。



総合政策学部

### 多角的な視点を取り入れた学際演習の魅力

学部長 松田和晃

1984年4月 社会科学部(社会科学科)開設(現総合政策学部)  
2002年4月 社会科学部(社会科学科)を総合政策学部(総合政策学科)に名称変更  
2006年4月 総合政策学部企業経営学科開設

社会科学系の学部を複合させるというコンセプトのもと、1984年に社会科学部が開設され、2002年に総合政策学部に変更しました。名称変更してから今年で10年になり、社会科学部から数えると平成26年には30周年を迎えます。

教育は永遠である。創始の志、師弟の関係という教育の原点は今でも受け継がれています。具体的には、1年生全員が所属するプレゼミでの少人数教育、柔軟に時にはダイナミックに時代に適応していくための力を養う学際教育です。その特長をいかした「学際演習」は、専門の

異なる複数の教員によって運営される少人数の演習授業です。授業では、特定の学問分野からではなく、多角的な視点からテーマが論じられるという魅力があります。学際演習は、総合政策学部のホームページで「学際演習 web 講義」として紹介していますので、ぜひご覧ください。

こうして4年間で現代社会の諸問題を的確に分析・理解できる力を身につけ、複合的な視点を持って21世紀の社会に貢献できる人材を育てていきます。



外国語学部

### 確かな語学力と豊かな人間性

学部長 赤井孝雄

4学部の中で最も新しい学部として1988年に外国語学部が設置され、杏林大学は総合大学としての歩みを始めました。語学を基本とした専門教育を身につけ、社会で役に立つ人材を育成するため、1クラスあたり25~30名の少人数教育を行っています。

英語ビジネスコミュニケーションコースと英語教育コースからなる英語学科、中日通訳翻訳プログラムの特色を持つ中国語学科、さらに特筆すべきは2010年に開設した観光交流文化学科で、外国語の習得を基盤に、観光産業への就職を目

1988年4月 外国語学部(英語学科、中国語学科、日本語学科)開設  
2001年4月 外国語学科開設  
2006年4月 英語学科、東アジア言語学科、応用コミュニケーション学科開設  
2010年4月 観光交流文化学科開設  
2011年4月 中国語学科開設

指す「ホスピタリティ・ビジネスプログラム」、外国語を活かして世界を舞台に活躍する「交流文化プログラム」、観光と地域振興分野での活躍を目指す「観光創造プログラム」の3つの履修モデルを掲げ、観光産業やサービス業界で活躍できる人材を育成しています。

初代学部長の志でもある「究極は好ましい人間の育成」は、確かな語学力をツールとしてビジネス、教育、通訳・翻訳、観光産業の最前線で活躍するコミュニケーション力豊かな21世紀型人材を育てるという本学部の教育に息づいています。

# 学生生活をデザインする 学生ステーションと就職関連サークル

学生ステーション

学生支援センター

## 学生が活躍する 5つのステージ

学生ステーションは、学生が自主的に課外活動を計画し、行動し、その経験を通して、自己成長の評価を自ら行い、教職員がバックアップする体制と仕組みを整備した学生活動の場です。

4月に発足する「学生ステーション」には<学園祭実行委員><各種ボランティア><八王子キャンパス学生塾><社会探究><コンソーシアム八王子学生委員会>の5つの場が用意されています。今後は、学生から企画提案を受けて、随時発展を

目指していきます。

学生ステーションに登録した学生には、活動内容と自己成長(社会人基礎力)の記録ができる専用ファイルを渡します。活動記録をつけて自己評価を行うことで、1年間の自己の成長が見える形になり、次の学年への目標づくりにも役立ちます。同時に活動内容の記録は平成24年度から新設される「杏林大学優秀学生奨励金(特別奨励金)」の申請にも添付資料として使用できます。

1 杏園祭に向け年間として活動  
学園祭実行委員



5 他大学学生・八王子市民と交流  
コンソーシアム八王子学生委員会

★学生天国★(八王子市域同学園祭)  
八王子いちよう祭り  
フェアトレード・カフェマーチの運営



4 仲間と一緒に体験しよう  
社会探究

- ・歌舞伎鑑賞 など
- ・食育関連イベント (料理教室、漬物作り など)
- ・現地視察 (国会議事堂、築地市場 など)



2 特技を活かして  
ボランティア

- ・小学校での朗読
- ・消防署主催災害時支援
- ・児童館での子どもとの交流 ほか



3 受けたい講座を企画・実施  
八王子キャンパス学生塾

- 「就職何でも相談」
- 「ニュース・放送番組の制作現場から」
- 「時事問題の読み方」
- 「ユーモアと笑いで健康になれるは本当!」



警察官受験サークル・就職活動サークル・留学生就職活動サークル

キャリアサポートセンター

初年次から就業意識を醸成・就職対策に取り組む

## なりたい自分 夢の実現への一歩

### 「目標を設定」し「社会で活躍する自分をイメージ」しよう!

警察官受験サークル



5人の内定者(写真下段)の筆記試験対策や面接内容の報告を、メモを取りながら聞く学生たち。

警察官就職志望者の増加もあり、平成22年10月に「警察官受験サークル」が活動を開始しました。現在78人の学生が毎月の活動を通して警察官などの仕事研究や受験対策に取り組んでいます。サークルに所属する4年生(平成23年度卒業)19人の74%(1月末現在)が警察官のほか消防職員、刑務官、地方公務員に内定しました。

2月9日には内定者報告会(写真)が行われ、後輩たちに向けて5人が試験や面接対策などを報告しました。

社会で活躍する卒業生から直接話を聞く学生たち。活動内容はサークルの学生が企画する。

就職活動サークル



平成23年4月には「就職活動サークル(民間企業への就職希望者支援)」がスタートしました。

現在1年生から3年生まで50人がグループワークを通じたコミュニケーション力の向上や企業担当者による業界研究、企業見学などのプログラムを活用して就業意識の醸成や就職活動に活かしています。

——留学生の就職もサポート

今年4月、国際交流センターと連携して「留学生就職活動サークル」がスタートします。海外で事業を展開する日本企業はビジネスの中核となる人材確保に力

を入れており、留学生の採用も広がっています。本センターは、日本での就業経験を将来母国で活かすキャリアプランを考える留学生に対して、企業研究の機会や就職対策支援のプログラムを提供します。

現下の就職協定では3年生の12月から活動が始まりますが、就職のカギは、初年次からの学生生活が基盤となります。これらのサークル活動を学生自らマネージする経験が就職活動の成功や社会でのキャリア形成に繋がると確信しています。(キャリアサポートセンター室長 齋藤幸雄)

### キャリア形成・就職活動支援プログラム

現下の就職環境では企業の採用選考は厳しさを増しています。企業の求める人材に応えるには「基礎学力」「高等専門教育の成果」「人間力」を高めることや企業の置かれている現状を理解し、どのような場面で貢献できるかを学生生活を通して学んでおく必要があります。

これらの課題に対応するために初年次から「自己成長の目標を立て取り組む」「企業の現状を理解し、自分との接点を見出す」ことを目的にサークル活動をスタートしました。

なお、キャリアサポートセンターが提供している主なプログラムは以下のとおりです。

#### 就業意識の醸成(社会/企業/仕事を知る)

支援プログラム	対象
ジョブスタディ(企業見学)	1~4年
女子学生キャリアセミナー	1~4年

#### 就職活動対策

支援プログラム	対象
キャリア・就職ミニ講座	3年
The模擬面接(集団・個人)	3年

#### 選考機会の提供

支援プログラム	対象
杏林大学学内合同企業説明会	3年
多摩地区18大学就職研究会主催合同企業説明会	4年



### 携帯版 防災マニュアル 全学生に配布

校内・学外で地震が起こったときの初期行動や避難の際に気をつけること、災害用伝言ダイヤルの録音方法や災害用伝言板サービスの案内、大学への安否報告の方法、非常時に必要なアイテムリストなどを記載した防災マニュアルを全学生に配布しました。



折りたたむと名刺サイズになる防災マニュアルの表紙(左)。

広げると八王子キャンパス版の裏面には避難マップとAED設置場所が印刷されている(下)。



### 八王子キャンパス 教室・廊下に避難マップ

いざという時あわてないために、緊急時の避難先や警備室直通番号を記したポスターを全ての校舎の教室や廊下に掲示しました。



卒業生リレー



地元で一番のパン屋を目指して



小林史和 (社会科学部 1995年卒)



「添加物をできるだけ使わず、毎日食べても飽きないパンが自慢。お客様は20～50代の女性が多く、従業員10人が毎日150種類のパンを焼きます」と小林さん。

ていただきました。「食パンが売れる店は繁盛する」というのが社長の信念で、私も食パンを“売り”にした店を開こうと思いました。

2002年春、広島県福山市に10坪ほどの店「Miche」(ミッシュ)をオープンしました。店の名は、昔フランス語で丸い食事パンをミッシュと呼んだことにちなみます。開店当初は、修行を積んだ店と同じハード系(フランスパンや天然酵母等の硬いパン)を売っていましたが、売れず、調理パンや惣菜パン、軟らかい菓子パンが良く売れることがわかりました。地元の売れ筋を理解することは大切だと実感しました。2、3年は思うようにいきませんでした。その後はようやく売れるようになりました。

今はパン作りの講習会があれば岡山、神戸、大阪まで足を伸ばし、ドンクにもイズベーカーリーにもないパンの作り方や流行しそうなパンを勉強しています。

盆も正月もなく、振り返ると、泣いたり、笑ったり、怒ったりの日々ですが、毎日のようにパンを買いに来てくださるお客様の笑顔のおかげで、いま人生を謳歌しています。

なぜパン屋になろうと思ったのか?それは、もちろん、パンが好きだからです。とは言えパンを食べることが大好きなだけで、作り方等は全く知りませんでした。

そこで大学卒業と同時に全国に店舗を持つ老舗の手作りパンの店『ドンク』で修行をしました。中学から大学まで野球部で鍛えられたので、体力には自信がありました。いざ仕事が始まると毎朝4時起き。食事や休憩をとったのも覚えていないほど忙しく、1日が終わるころはぐったりしていました。

6年が経ち、ようやくパン職人らしくなりました。パンは店によって材料も作り方も違います。ドンクにはないパンを学ぶため、神戸の『イズベーカーリー』で2年間修行を積みました。

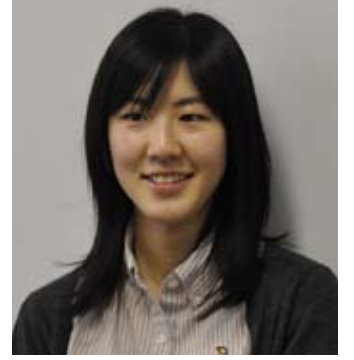
イズベーカーリーは本社工場と三ノ宮周辺に4店舗ある神戸だけのパン屋です。この社長からは多くのことを教わりました。本社工場では1日に食パンを約1000斤焼きます。普通のパン工場ならほとんど機械でするところを手作業で行うため、仕事には早さと正確さが求められました。きちんとした商品を心をこめてつくることを教え

在学生リレー エンジョイ☆杏林 Life

研究も、仲間との時間も楽しんでます

松井幸恵

(保健学部健康福祉学科3年)



健康福祉学科は保健学や医学、福祉学はもとより、食品衛生や産業衛生、環境衛生学まで広く人と健康について学ぶ学科です。私の学年は約50人(男子2人)が在籍しており、主に養護教諭や社会福祉士を目指して日々勉強しています。

そんな私の学生生活を紹介させていただきます。

1年生の頃は週6日授業がありました。1限や6限の授業も多く、大学の勉強量の多さに圧倒された一年でした。

2年生では、ゆとりが出来て、同期生では空いた時間に学校のボランティアやアルバイトをする人が増えました。私も2年の後期から児童館のボランティアを始め、実際に子ども達と遊んだりお祭りイベントに参加することで、机上の知識だけでなく多くのことを学ぶことができました。

また、水質調査の実習がきっかけで、研究室に出入りして、谷地川探検隊の先輩方に同行し、水質調査や分析などに参加させてもらいました。



保健学部校舎屋上の雨水取水装置をチェックするのも研究の一部(左)。昨年12月、キャンパス近くの谷地川の水質調査の結果をまとめ仲間と発表(左から3番目が松井さん)。

3年生では授業内容は、より専門的になり、実習を踏まえた実践的な内容となりました。自由な時間が増えた分、私は2年生から参加していた水質調査の活動時間を増やし、中心メンバーとして研究を進めていきました。

そして12月に行われた八王子市コンソーシアムで、保健学部の他学科を含め7名からなる谷地川探検隊の発表者として参加しました。発表をまとめるにあたり先生方に懇切丁寧なご指導をいただきながら、過去の先輩方の調査を参考に学生の力でまとめました。残念ながら賞は取れませんでした。地道な活動を通して大きなイベントに参加することができ、大学生活におけるとても良い経験となりました。

大学生には自由な時間が比較的多いです。今、何かに興味や関心を持っている人は、ぜひ行動を起こすことをお勧めします。直接、就職や成績に結び付かなくても、きっとどこかでその経験と自信が活かされると思います。

学園創立50周年へ

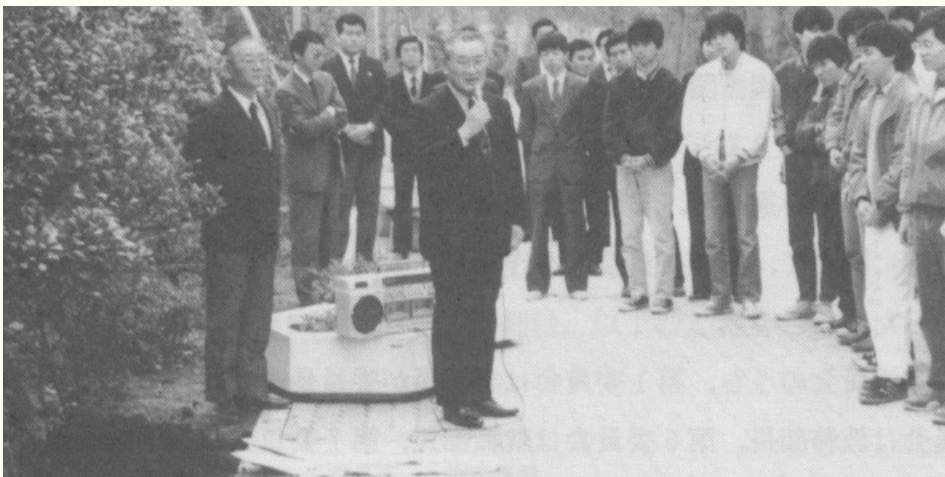
杏林年代記



クロニクル

杏林学園は1966年に開学し、2016年に50周年を迎えます。「杏林年代記」では、懐かしい写真とともに、先人達の業績を振り返ります。

第3回は、1984年に開設した本学初の文系学部 社会科学部に関するエピソードを紹介します。



1期生入学記念植樹式で挨拶する白石孝・初代社会科学部長。学部創設にあたっては様々な努力と苦労があり、「1期生をむかえたときの感はまさに無量のものがあつた」と白石初代学部長は『峰の頂き遠くとも』(私家版、1991年)で記している。

本学初の文系学部の社会科学部(現・総合政策学部)は、1984年に開設しました。

社会科学部は、経済学部や法学部等といった単一の学問領域に限定された学部としてではなく、幾つかの学問領域を総合して学ぶことができるものとして、当時この名称の学部を持った大学はいくつかありましたが、経・法・政・商の分野を包摂した学際的な学部を志向するもので

は日本で初めてでした。

病院(三鷹新川総合病院)を母体とした本学園にあって、初代・松田進勇理事長(当時)が文系学部の構想を口にした時は周囲をたいそう驚かせたようです。

短大設立時には「杏林短期大学」、大学開設時には「杏林大学」という名称になりました。「杏林衛生短期大学」や「杏林医



科大学」としなかったことから、学園創立時からゆくゆくは総合大学へという道筋を思い描かれていたことが窺えます。

社会科学部第1期生募集の入試ポスターには、「燃える。明日の国際人は、キミが主役なのだ!!」というキャッチコピーが紙面に熱く踊っています。

1期生・2期生の卒業生たちの在学中の大学の印象として、「先生との距離がとても近く感じられ、学生と教員が一丸となって、自分たちがこの杏林大学の新しい学部の伝統を創っていくんだ!という気風が感じられた」という声が聞かれます。

開設当初はまだ設備も整っておらず、バスの構内乗り入れが実現するまで、滝山街道から長い坂(いわゆる「杏林坂」)をテクテク登っていたこと、体育館(松田記念館)ができる前は食堂が一つ(入学センターの位置に所在していた)しかなく、昼食をとるにも苦労していたなど、かつてを知る人には今でも思い出深いことのようにです。

- ※1984年の出来事
- ▲アップル社・初代マッキントッシュ発売(価格・2,495ドル)。
- ▲ロサンゼルスオリンピック開催、柔道・山下泰裕らが金メダルを獲得。
- ▲グリコ・森永事件発生。今日に至るまで未解決。
- ▲エリマキトカゲ大流行。など



第1期生募集ポスター(左)。学園祭準備風景(上)。D棟がないころのF棟。



社会科学部は2002年に「総合政策学部」と改称。2006年にはそれまでの1学科から「総合政策学科」と「企業経営学科」の2学科に再編された。師弟関係のごとき強い結びつきで学生と教員が交わる、開設時の「Person to Person」の理念は今もしっかりと息づいている。

# 学部・大学院トピックス

## 医学部

### 東京都・茨城県地域枠入学生について

医学部では平成22年度から東京都と茨城県のいわゆる「地域枠」入学生を受け入れています。平成22年度は東京都枠5名、茨城県枠1名、平成23年度は東京都枠10名、茨城県枠2名の学生が入学しました。この制度は、東京都と茨城県とで若干異なりますが、卒業後の一定年数、指定された医療機関で勤務することを条件に奨学金が支給される制度です。義務年限は奨学金受給期間の1.5倍、いずれも医師不足の地域や領域（小児、周産期、救急、へき地など）に医師を供給することを目的としています。

学内には地域枠の学生のための特別のカリキュラムはありませんが、東京都は毎年へき地医療見学会合宿を行っています。平成23年の夏は三宅島に行きました。学生のレポートを見ると、やはり現場に行かなければ学び得ない多

くのことを学び、感じ取ってきたと思われま

す。また、平成23年の春には、学生の希望で当院のNICUの見学を行いました。地域枠入学生は学習意欲が高く、よい成績を修めています。他の学生の模範になってほしいと思います。彼らは2年間の初期臨床研修修了後、地域の医療機関で即戦力となることが期待されているわけですが、必ずしも教育環境の整った施設ばかりではありません。したがって、長期のキャリア形成を支援することは母校の任務であると考えています。

(地域枠小委員会委員長・医学部教授 赤木美智男)



### ●三宅島での研修に参加して

医学部医学科1年 西尾南紗



三七山展望台からの眺め(左)。研修に参加した本学1年生(上写真:前列左から2番目が西尾さん)

地域医療の実際を学ぶ「地域医療学生研修」が、8月7日から3日間、三宅島で行われ、本学から私を含め11人が他大学の学生とともに参加しました。

研修後、私の地域医療への見方が大きく変わりました。私は小学校5年生から中学校3年生までインドネシアのスラバヤに住んでいました。そこで日本との医療の格差を目の当たりにし、その差を少しでもなくしたいと思い、医師を志すようになりました。受験に必死で医学部に合格することに突っ走っていた私は、医師への夢を志した原点を忘れかけていた気がします。

今回三宅島に行って、インドネシアの

時と同じように、医療の格差を目の当たりにし、その原点を思い出せた気がしました。やはり私は医師になって地域医療に貢献したいと強く思いました。

また研修では、仲間の大切さも学びました。これからの医療において、仲間とのチームワークは欠かせません。時にはまじめに話を聞いたり、また時には一緒に笑いあっておしゃべりをしたり、そういう仲間がいることを誇りに思いました。

いま、地域医療に一層関心を持つようになりました。勉学に励み、地域医療についてさらによく知り、その地域を担っていただける医師になりたいです。

## 保健学部

### 保健学部へようこそ 新入生と先輩学生の交流会



昨年9月17日に行われた看護学科の「ピアサポート交流会」には1,2年生93人が参加しました。ゲームプログラムや軽食タイムをはさみながら、グループを中心とした交流や情報交換を行いました。

どんな授業を履修したらいいのか、勉強と部活やサークルの両立はうまくできるのか、というアルバイトならのできるのだろうか・・・。

不安や期待をかかえる新入生に上級生が経験を話したり、質問や相談にのるなど、学生による学生のための支援「ピアサポート交流会」が学科ごとに開かれました。今年の新入生に対しても実施予定です。



小学生のころ、足に大怪我をして救急車で運ばれたときに付き添ってくれた救急救命士に憧れてこの道に進むことを決めました。ラグビー部では他学部の仲間とともに試合に向けて練習に励んでいます。

救急救命学科1年 高橋洋晶

新入生のグループに、先輩や先生が加わって学生生活や授業、クラブなどについて話を聞かせてもらいました。

1年生の勉強が高学年で大事になってくるので日々の積み重ねが大切だと言う先輩の一言は印象的でした。また統計学は卒論などに役立つとアドバイスももらったので選択しました。

先輩にならない学内で応募している「災害時支援ボランティア」に登録しました。レスキュー隊の訓練を見学したり、放水訓練に参加したほか、市内で行われた大規模避難訓練で手伝いをさせていただきました。

応急手当普及員の資格を取得したので、これからは先輩方と同じように学内外での普及活動にも参加したいです。今度は上級生として新入生に経験を話したいと思います。

以前から海外で働きたいという希望がありました。4月からは国際的に救援救護活動も展開している日本赤十字社和歌山医療センターで働くことになり、今からとても楽しみです。



臨床検査技術学科4年 小俣朱加

交流会は前期試験の前ということもあり、「テストは難しいか」「どう勉強をしたらよいか」など聞かれました。やはり普段の勉強が大切です。授業で配られたプリントをしっかりと復習することが大事ですね。

アルバイトや課外活動についても関心があるようでした。3年生になると実習が始まり忙しくなりますが、2年生までは比較的時間があります。私はデパートでアルバイトをしていましたが、結構社会勉強にもなりました。バドミントン部やバレエ部でがんばっている友達のことも紹介しました。

それから八王子駅周辺のお店について。女子学生には必要な情報ですね。研究室など訪ねてくればこういう話はいくらでもできます。楽しい4年間になるよう、センパイとして少しでも参考になればと思っています。

## 総合政策学部

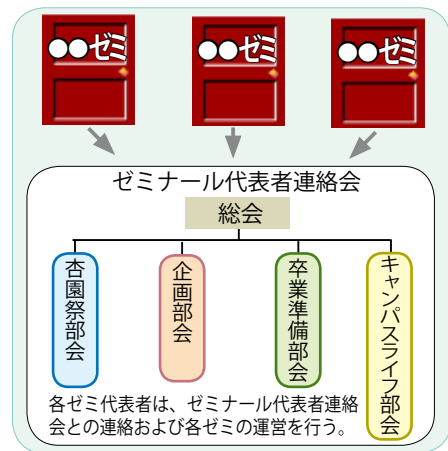
### 学びの環境を学生視点で提案 キャンパスライフ部会



左から部会の学生メンバー飯山時空さん(3年)、勝木健太郎さん(3年)、鈴木成彬さん(2年)、齋藤瞬也さん(3年)と久野講師。

総合政策学部には「ゼミ長連絡会議(通称「ゼミ連」)」という学生組織があります。これは37存在するゼミナール間の交流や情報共有促進を目的とする組織ですが、23年度、このゼミ連に4つの新しい下部組織が誕生しました。

その一つが、今回紹介する「キャンパスライフ部会」です。同部会は、大学が提供する様々なサービスについて、学生の視点から建設的な議論を重ね、その成果を大学(教員)に対して報告・提言するものです。



今年度のテーマは「カリキュラム」。部会メンバーの学生6人が半年間にわたり授業やシラバス(講義内容や学習計画)について検討、昨年12月、その成果を教員に発表しました。発表会では、時間割における科目配置の問題、新規に開講を希望する科目などに関する意見や提言が出されました。

提言のなかには、短期的に対応することが制度的に難しいものもありましたが、科目配置の問題など、すぐにでも改善することが可能なものも含まれていました。いずれの提言にも学生の勉学に対する意識の高さがうかがえ、さらに学生が抱える問題やその解決法、あるいは学生満足度の更なる向上を実現するためのヒントも多数盛り込まれていました。

今後も、例えば就職支援や学内のIT環境といったトピックにつき、学生ならではの意見やニーズを可能な限り引き出し、学習環境の更なる改善や学生満足度の向上に努めてまいります。

提言・質問の内容	回答
<b>＜＜学科や学年別に定められた履修制限に関する問題の例＞＞</b> ・意欲と能力がある学生のために、現在5セメスター以上でない履修できない一部の専門的な演習科目(公務員試験対策科目など)を、低学年のうちから履修できるようにしてはどうか。	平成24年度からの実施にむけて履修規定の一部を改正済み
<b>＜＜時間割における科目配置の問題の例＞＞</b> ・多くの研究室ではゼミ活動を木曜の4時限に実施しており、そのまま5時限の時間まで延長して実施する場合もある。他方、3セメスター以上の学生が履修可能な唯一の英語科目が木曜の5時限に配置されていることから、ゼミとの兼ね合いで英語を履修しづらい状況にある。当該英語科目の配置を変更してはどうか。	平成24年度より発展英語科目の配置を変更することで決定
<b>＜＜新規に開講を希望する科目の例＞＞</b> ・3セメスター以上の学生が選択で履修できる英語の科目(英会話やTOEIC対策)を増やしてはどうか。 ・人前で自分の意見を説得的・論理的に伝えるためのプレゼンスキルを総合的に向上させるための科目を設置してはどうか。	学則改正を伴うため、将来に向けて検討中

(総合政策学部講師 久野新)

## 外国語学部

### 座学・実地・検証のサイクルで観光教育 観光屋台村コンペ

観光ホスピタリティ教育を考える上で、「現場体験」は大学で学んだ理論を定着させるために重要です。その一環として杏園祭で各地の観光地にちなんだ食をテーマにした屋台村を実施しています。

屋台の準備・販売から店舗運営の実際をバーチャルに学ぶとともに、講義で学ぶ経営・マーケティングの理解を深めるため、売上高など6つの経営指標で評価されるコンペティションが行われ、野口ゼミチームは優秀ゼミに選ばれました。



物産展を思わせる屋台村だが、経営する学生たちは真剣そのもの。野口ゼミチームは参加9チーム内で、3指標項目が1位になる好成績を残し優勝。

### コンペティション審査委員長の講評

野口ゼミチームの成功点は二つあります。一つは、基本的な戦略の方向性が正しかったことです。杏園祭での飲食販売という特殊な市場、出店場所が決して良い立地ではない点から、販売数には限界があります。売上高を確保するには高単価な商品を扱うことが必要であり、他チームの平均より高い価格(@¥350)を設定しています。

二つめは、扱った商品が顧客(来場者)のニーズに合っていた点です。これまでの経験と独自の分析から、「来場者は中途半端な食べ物よりも、しっかりした食事を求めている」、「多少高くて

も購入する」と仮説を立て、販売商品(焼きうどん)を決めています。高単価の商品はそれなりの付加価値が求められます。「岩手のこだわり『藤勇』しょうゆ焼きうどん」というあえて説明的な商品名を付けることでこだわりを表現し、同時に屋台村の統一テーマ「がんばろう東北」もアピールするなどネーミングに工夫をしていました。さらに店頭看板と商品説明(店主の口上風)を全て「筆書き」にしたり、岩手産醤油『藤勇』の瓶や箱をディスプレイするなど効果的な演出も光りました。

(外国語学部教授 柳田義男)

### 優秀賞を受賞して

台風などの影響で東北の野菜を取り寄せることができませんでしたが、岩手県特産の醤油を使い焼きうどんを販売しました。プロモーションとして、チラシやポスターのデザイン統一、価格戦略として、想定販売個数・価格の設定などマーケティングにも力を入れました。準備は非常に苦労しましたが観光屋台村コンペで優秀賞をいただきました。



右写真：柳田教授(右側)から優秀賞のカップが贈られる。左写真：受賞を喜ぶ学生たち

達成感はもちろんですが、実際に座学で学んだことを実践できてとても楽しかったです。(野口ゼミチーム)

### 英語学習ピアサポート

英語の学習法や試験対策などを学生同士で学び合う活動が盛んに行われています。

今回は会話などを何パターンも暗記してネイティブに近い発音ができるよう訓練することで「使える英語」を身につける、1年生必修の授業「PEP1」をサポートするPEP1サポートと教員をめざす学生同士が教え合い、学び合う教職サークルの活動を紹介します。

### PEP1サポート



「PEP1」履修者の中から希望者を募り、3・4年生が1年間マンツーマンで発音矯正や勉強の仕方を指導する課外活動に取り組んでおり、現在9組のペアが毎週水曜日に活動しています。

私が担当する学生は最近、注意なくとも大きな声でよい発音ができるようになりました。成果が目に見えてくるとうれしくなります。

指導する上級生は私を含めて教職希望者が多く、教職課程の授業で行われる模擬授業の勉強にもなるなど、「教える場」としても有益です。

(英語学科3年 根本祥吾)

### 英語学科准教授 岩本和良

自らの体験を後輩に活かしてもらおうと上級生の発案で始めたのが2つの活動です。

1・2年生は目標のためにもっと勉強しようという気持ちになるなどよいサイクルで回っています。

学生には自ら学ぶ気持ちを大切にしてほしいと思います。この姿勢は社会に出て必ず力になるはずですから。



### 教職サークル



教職サークルのメンバーは1年生から4年生まで10人です。教師をめざす仲間同士、教員採用試験の対策を授業形式で教え合ったり、板書や授業の仕方など教育実習の経験を活かして模擬授業をするなど週2回活動しています。

私たちがしてきた4年間の勉強や教育実習で経験した良い点、反省点のすべてを後輩たちに役立ててもらいたい気持ちです。

活動していて後輩たちから学ぶ点も多く、また自らの経験をきちんと振り返ることにもつながるので、有意義な取り組みです。(英語学科4年 芳澤功)

## 地域交流

地域に根ざした大学を目指して

## 地域社会へ貢献

人的資源の提供

小中高等学校での教育支援、防災ボランティア活動

専門知識の相互活用  
公開講演会

まちづくりのための地域活動  
地域の祭り、イベント参加

杏林大学の知的・人的資源を市民講座・交流会、ボランティア活動、教育活動、調査研究などとして地域社会へ貢献する活動を進めるのが地域交流推進室です。

### トピック

いま大学は、教育、研究の特色を活かして地域社会と様々な形で連携を深めています。昨年、日本経済新聞社産業地域研究所は全国の国公立731の大学に対して、地域貢献に関する調査を行いました。この結果が、「全国の地域貢献度ランキング」として『日経グローバル』2011年11月21日号、12月5日号で公開されました。

2011年度より加わった評価指標「ボランティア・防災分野」では、東日本大震災後の医師等ボランティア派遣を積極的に行ったことが評価され12位になったほか、地域交流事業などが評価され、3項目で前年度のランクを大きく上回りました。

調査は、学内の地域貢献部署の有無、学生の地元就職割合、地域での連携協定数など30項目を100点満点で評価しています。

ボランティア・防災分野 12位/489大学中  
(2011年度より加わった評価指標)

医科・薬科・歯科系大学 3位/28大学中  
(2010年度7位)

南関東地域総合ランキング 27位/129大学中  
(2010年度42位)

全国総合ランキング 138位/489大学中  
(2010年253位、2009年443位)



上：被災地支援に向かう医学部付属病院スタッフ。中央は甲能直幸病院院長。右：被災地の仮設住宅で他大学の学生と共にボランティア活動をする学生。



### キャンパス情報⑦

## ジャパンプロテクション株式会社



八王子キャンパスで学生や教職員の安全を見守り、24時間・365日警備にあたるジャパンプロテクション株式会社。警備室は正門左手にあり、ここで入構車両の確認や通学バスの誘導を行うほか、校舎の施錠確認と巡回、受験生などの休日見学の対応など日夜活躍しています。

その中でただ一人女性警備員として働く、**阪口かおり**さんにお話を伺いました。

### —お仕事の内容について

杏林にきて9年になります。私の勤務時間は8時から17時までですが、8人の警備員がローテーションを組んで常時警備にあっています。毎日多くの業者さんが来校しますので、その際の入構確認をしています。決まった時間に1時間ほどかけて、すべての校舎を巡回し、教室や女子トイレの戸締りや点検をしています。

### —学生たちの印象

ここにいると学生の成長を肌で感じます。入学間もないころは、私からの声がけにうなづく程度の学生も、それが挨拶や会話のキャッチボールに変わってきます。いつもの時間にいつもの場所にいるという安心感の表れかもしれませんね。

就職が決まりました、とうれしそうに報告してくれたり、彼女へのプレゼントの相談を受けたりすることもあります。部活動に懸命に励む学生の姿などもほほえましいですね。

構内に入入りする業者の方からは、ここの学生はよく挨拶をされると言われます。キャンパス全体でそういう雰囲気があるのも確かです。

### —思い出に残っていること

はじめは女性の警備員で務まるのか心配でした。でも、「いつもありがとうございます」「風邪には気をつけてくださいね」など教職員の方からやさ



インタビューにこやかに答える阪口さん

しい言葉をかけていただき、いまは感謝とやりがいを感じています。立派な社会人になった卒業生に久しぶりに会える学園祭は楽しみです。それから卒業式の日にはちょっと忙しいですね。晴れ姿の卒業生との記念撮影に引っぱりだこで、ちょっとした有名人なんですよ(笑)。

### —仕事をするうえで気をつけていること

警備室は大学の入り口です。気持ちよくキャンパスに入ってもらえるような挨拶や振舞いを心がけています。それから、健康管理には気をつけています。冬はマイナス4度になることもあるので、怪しいと思ったら早めに薬を飲んだり、睡眠を十分取るなどしています。そして、気合! 冬服としてズボンも用意されていますが、スカートにこだわっているの、このこだわりをとおすためにも風邪はひけないんですよ(笑)。



安全で快適な、そして楽しいキャンパス生活を送っていただければ、今日も杏林坂で敬礼! です。

### クラブ・サークル紹介

八王子・三鷹両キャンパスではあわせて87のクラブとサークルが活動しています。今回は、端艇部と写真部を紹介します。

#### ●端艇部

練習も工夫次第、大会へ向け日々努力



2011年8月、戸田ボートコースで行われた東医体決勝戦。写真手前が杏林大端艇部

ボート部には現在、医学部1年生から6年生まで合わせて48人が所属しており、三鷹キャンパスの運動部でも屈指の規模で活動を行っています。この中で入学前からのボートを経験していたのは一人だけと、ほとんどの部員達は大学に入ってからボートを始めました。

ボートの試合は1000mのタイムを競い合うレース形式です。その中においても種目は様々で、船に対する漕手の人数によって一人乗りのシングル、二人乗りのダブル、舵手を含めた五人乗りのフォアに分けられます。

端艇部が参加する主な大会は8月に行われる東日本医科学生体育大会(東医体)・医療保健レガッタと10月末の相模湖レガッタです。その中でも東医体は同じ医学部の学生同士の戦いであり、同じ

条件同士の相手として負けられないという思いが強くなるためレースもより一層熱いものとなります。

練習は火・木曜日は三鷹キャンパスで陸上練習、土曜日は相模湖で水上練習をしています。他大学のボート部に比べ、水上練習の機会が少ないため、平日の陸上練習でどれだけ週末の水上練習を意識して練習内容を編み、取り組んでいけるかが端艇部のテーマです。

現在部員も増え、またそれに伴い多くの卒業されたOBの先輩方からご支援を頂いており、そのおかげで他大学に比べても恵まれた状況で活動を行うことができます。

(端艇部主将 医学部3年 齊藤幹人)

※端艇部はH23年4月からは医学部のみで活動しています。

#### ●写真部

みんなで「楽しく」写真を撮ってます!

写真部は外国語学部・総合政策学部・保健学部・留学生を含め計36人で活動しています。男女比率は1:3で女性が多く、近年流行の「カメラ女子」がここにも反映されていそうです。活動は1、2ヶ月に1回の撮影会(恒例の撮影場所は多摩動物公園)、他大学との合同写真展開催、夏(または春)合宿、学園祭での写真展の他に卒業アルバム写真の協力や授業風景の撮影依頼を受けています。

学園祭は毎年、自由展とテーマを決めた企画展の2部構成で行います。昨年のテーマは「日常」でした。自由展は本当にどんな作品を出してもいいので、皆の自信作品が、企画展ではそれぞれが思う「日常」作品が並びました。

学園祭当日まで他の部員の作品をじっくり見る機会がないので、当日作品を見て、「こういう構図の捉え方があるのか」



部室の天井や壁にもびっしりと作品が貼ってある。部員同士仲がよく、部会や撮影会の時は色々な話が飛び交います。

「これはどこで撮ってきたのだろう」と私たちも楽しんで見えています。

展示の際はアンケートを実施しています。自分の作品に対する評価がもらえるため、何度経験してもドキドキ感があります。特にコメントも頂けた時は喜びもひとしおです。

最初からカメラを持っていた人、入部してからカメラを買った人などそれぞれですが、「楽しく写真を撮ろう」という考えのもと、活動しています。「写真を撮る」ことに興味がある方は気軽に見に来てください。

(写真部部长 外国語学部3年 指宿久美子)

### 数字で見る杏林大学 ⑦

39,555



2月のイベント企画では4種のカレーが日替わりで提供された(三鷹キャンパス)。昼どきは満席になる八王子キャンパス・ホール杏。

腹が減っては戦ができぬ、いや、学業も教育も診療もできません。39,555食、これは杏林大学にある主な食堂で10月の一か月に食べられた食事の数の合計です。食べることは誰にとっても楽しみの一つです。食堂ごとに詳しく見てみましょう。

まず、八王子キャンパスの「ホール杏」。ここでは8,334食、一日平均379食。売れ筋は、第1位チキン南蛮450円、2位ヒレカツ丼400円、3位とりのから揚げ和風ソース。この食堂は体育館の下にあり、各学部からほぼ等距離にあるので、多くの学生に利用されています。

「ガーデン丘」ここは3,397食、1日平均179食。色とりどりの椅子が並ぶ眺めの良い学食です。人気メニューは、1位ヒレカツ丼400円、2位目玉焼きハンバーグ450円、3位若鶏竜田揚げ450円。どちらの食堂も若者の好きな肉系の食事が人気のようです。この食堂の他、サンドイッチの「サブウェイ」で8,608食が出ています。定番は、炭火照り焼きチキン、えびアボカド、BLTのサンドイッチです。保健学部の校舎では、「お弁当」が1,489食出ています。

三鷹キャンパスにある「アプリコット」では17,727食。ここは、医学生、看護学生の他、医療従事者や患者さんも含めて利用されており、売れ筋メニューは、1位ご当地ラーメン(山形、富山、尾道、旭川)、2位鮭俵コロケランチ、3位パンプキンオムライスで、八王子より少し軽めの食事が人気のようです。

杏林大学の学習、教育、診療を行う人たちを支える食堂も、大学にはなくてはならない存在ですね。



## 金田一 教授の研究室から ⑦

金田一秀穂(きんだいち ひでほ):1953年東京生まれ。東京外国語大学大学院修了。中国大連外語学院、米イェール大学、コロンビア大学などで日本語講師。1988年より杏林大学外国語学部で教鞭をとる。

### 国松先生のこと

外国語学部の教授であった国松昭先生が亡くなられた。

近代文学がご専門で、自然主義文学の大家だった。東京外国語大学で長く教鞭をとり、その後、杏林大学に迎えられた。

きわめて繊細かつしなやかな感受性を持ち、いつまでも少年のような柔らかな魂を内面に保ちながら、外向きにはあくまでも豪放闊達、大きな声で語り、病気がありながら酒と煙草をやめることを潔しとしなかった。阪神タイガースのファンで、球場に見に行く时必须負けると言って、しょんぼりされていた。一度、奇跡的に勝ったことがあったが、帰途階段から落ちて大怪我をした。毎年卒業記念パーティでは応援リーダーをかって出て、舞台上で用意の白扇をふり蛮声を披露した。その姿を感動とともに記憶している卒業生は多いことと思う。多くの学生に深く慕われた。自信喪失して博士論文についていき悩んでいる学生に、適切な時期に優しく声をかけて発奮させ、今彼は中国の大学の教授になって活躍している。怠惰な学生にはあくまで厳しく、どのような関係があろうと断固として落第点つけて動じなかった。任期の最後の

数年、教務部長の重責を務められたが、それが身体を蝕んだのではないかと悔やまれる。弱音をいっさい漏らさず、あくまでも淡々と仕事をこなされていたが、それまでの先生を知る者には、あまりにも不向きなお立場に見えた。正義漢であり義侠心に溢れ、真の意味での男らしさをいつも見せていただけた。

私は東京外大の大学院で、国松先生の講義の末席を汚した者である。杏林では先生の人柄のおかげで、楽しく愉快的時間を過ごすことができた。元教師と学生という関係ではなく、仕事上の先輩、後輩として遇していただけて、とてもありがたかった。年二回の学会では、打ち上げの後、阪田先生とともに、いつも酒席に同席させていただいた。同じ喫煙者仲間として、唯一残された学校のタバコ部屋でバカ話をした思い出は、ここに書ききれない。あのタバコ部屋が廃止されて今はもうない。

長く療養されていたご母堂が亡くなられ、それを追う男の子のように、先生も逝かれた。ご冥福を祈ることしか出来ない。



### 健康ひとくちメモ⑦ アルコール関連問題



アルコール飲料は、日本では「酒は百薬の長」とか「社会の潤滑油」などと言われ、古来から神事・仏事をはじめ、多くの行事にはなくてはならない物とされてきました。一方で、過度な飲酒が多くの問題を招き、その結果悲劇が生じているのも事実です。過度な飲酒は以下の障害や問題を引き起こします。

- 1. 身体的健康障害**  
肝臓・膵臓などの臓器障害、生活習慣病やメタボリックシンドローム、がん・脳卒中
- 2. 精神的健康障害**  
アルコール依存症、アルコール関連のうつや自殺
- 3. 社会問題**  
飲酒運転、DV・児童虐待、傷害などの犯罪、未成年飲酒、アルコールハラスメントなどの人権問題

これらは、アルコールの薬物としての「依存性」「致酔性」「臓器毒性」「催奇性」などによってもたらされる「アルコール関連問題」と考えられます。

WHOは、世界で毎年250万人がアルコールが原因で死亡しており、対策を怠ればますます深刻化すると警鐘を鳴らしています。2010年の第63回総会で「アルコールの有毒な使用を低減する世界戦略」を採択し、2013年総会で各国の成果の報告を義務づけました。日本でも、厚

生労働省が健康政策として、多量飲酒問題の早期発見と対応、未成年者の飲酒防止、アルコールと健康についての知識の普及が基本方針となっています。

適度な飲酒量は、男性で1日当たり純アルコール10~19g(日本酒に換算して半~1合)、女性では9g(同じく半合)までが最も死亡率が低く、1日当たりのアルコール量が増加するに従い死亡率は上昇すると報告されています。さらに、次のことを留意する必要があります。

- 1) 女性は性ホルモンの関係で男性より少ない量が適当
- 2) 少量の飲酒で顔面紅潮を来すなどアルコールの代謝能力が低い人は少ない量が適当
- 3) 65歳以上の高齢者は、より少量の飲酒が適当
- 4) アルコール依存者は適切な支援のもとに完全断酒が必要
- 5) 飲酒習慣のない人に対してこの量の飲酒を推奨するものではない

お酒を長く楽しむには、節度ある飲酒量を守り、他人に迷惑をかけないように心掛けなければいけません。

(佐藤喜宣: 杏林大学医学部教授 法医学)

さとうよしのぶ 1949年生まれ。日本大学医学部卒、同大学院医学研究科修了(医学博士取得)後、同大学医学部講師、琉球大学医学部助教授、東京都監察医務院・医長監察医を経て杏林大学医学部教授。東日本大震災直後、被災地で災害時死体検案支援活動を行う。



### 2012年度 大学行事・イベント (平成24年4月~平成24年11月)

4月 8日(日)	入学式(春学期)	10月 6日(土)、7日(日)	杏園祭(八王子キャンパス学園祭)
6月上旬	杏会総会 (保健・総合政策・外国語学部保護者会)	10月 6日(土)	杏祭(三鷹キャンパス学園祭)
		11月 11日(日)	創立記念日

編集を終えて .....

- 東日本大震災からもうすぐ1年、この春休みも被災地に行っている学生がいます。どの学生も得難い経験をきて一生懸命に話をしてくれます。しっかりした顔つきに驚かされます。跡見学長は昨年からの総合・外語の全1年生とのふれあいを開始されました。10月の杏園祭では顔見知りの1年生から声がかかる場面もありました。3年後にはこの2つの学部の全学生が学長の「知り合い」になります。本号にご協力をいただきました皆様に御礼を申し上げます。(有)
- 5面のシリーズ企画「杏林年代記」はいかがでしたか。記事作成にあたり学園の古い資料を手にするごとに、当時の教職員や学生の皆さんが一体となって歴史作りに取り組んだ熱い思いがひしひしと伝わってきます。今号巻頭の座談会では大学を取り巻く環境が厳しさを増す中で、学生とともに新たな杏林教育を切り拓く決意が力強く述べられました。本紙もその一助となるよう努めてまいります。(ふ)

杏林大学新聞編集委員会 編集長 黒田有子  
事務局 広報・企画調査室  
TEL 0422(44)0611 E-mail koho@ks.kyorin-u.ac.jp URL http://www.kyorin-u.ac.jp/